

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」

平成28年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年7月 1日(金)発行 第 14 号 発行責任者:高橋 弘悦

お世話になりました 自然ふれあい学習 落取り

6月25日、恒例の落取りを無事終わることができました。今年度も全校生、全保護者、全教職員参加の下、大変有意義な行事になりましたことを心より感謝申し上げます。

前日からの雨で、天候が心配されましたが、6時頃にはすっかりあがり、曇り空でむしろ作業には絶好のコンディションだったのではないかと思います。

今年は各地で熊の被害が報じられ、やはり熊出没の影響で中止した3年前よりも不気味な感じがしましたが、大量に準備した熊よけ花火と元気な歓声で何事もなく終わることができました。

今年度も松野商店の全面的なご協力でおいしい豚汁もいただくことができ、西山の自然を満喫することができました。

同窓会を中心とした各地区からの協力もあり、総計620.4kg!あらためて地域に支えられている学校であると確信しました。

《個人賞》第1位 金子 天斗 6.1kg 第2位 菊地 真生、鈴木 未夢 5.9kg
《ぴたり賞!》(目標と…)井関 千聡 3.5kg 《美しいで賞》金子 千聖



新たな名産品を開発しよう！

森林環境学習（木工クラフト）

29日、柳津町ふれあい館で、柳津町特産の桐材を生かした木工クラフト製作会を行いました。

本校では、柳津町の新たな名産品として「ひしストラップ」を開発し、町内各所で販売しておりますが、開発から2年…。そろそろ第2弾を開発すべきと考え、「工房MEGURO」さんのご協力をいただいて行った製作会です。

今年度は、西山中学校だけでなく、柳津中学校も巻き込んだものにしたいたいの考えから、柳津中1年生との共同作業です。

軽くて丈夫、木目が美しい桐材を用い、大変ユニークな作品がいっぱい仕上がりました。「ひしストラップ」同様、大きな動きになればいいなと思っています。

なお、この行事は前回の「稚魚放流」同様、森林環境学習の一環で、町の全面的なご協力をいただきました。



社会が求める人間は…（その2）

好きでよく見る番組に「林先生が驚く初耳学」があります。26日の放送では、「『東大卒だから』と、周りからのプレッシャーが凄い」という悩みに対する林先生の回答がありました。

この相談に対して、林氏は「社会では、仕事ができるかできないか」で判断されること、また、「社会で活躍するために必要な能力」として、「問題を『解決』する力」と「新しいものをつくる『創造』力」を挙げ、「『東大だから』と言ってくれるのは数年。そこから先は関係ない」と力説されていました。

第12号での「社会が求める人間は」でもう一つ述べたかったのがこのことです。答えのある問題に強い東大生でも、答えのない問題に果敢に取り組む姿勢がないと社会では通用しません。このような強さを持っているのも、厳しい受験戦争を勝ち抜いてきた学生に多いのは事実ですが、「テクニック」を優先してきた学生には欠けがちな資質かもしれません。

西山中学校では、この社会、地域が抱える大きな課題に挑もうとしています。この経験はきっと将来生きてくるものと確認しています。

7月30日には、英国一流大学の学生相手に、英語で「地域の抱える課題と西山中学校の挑戦」を発表します。大変楽しみです。

